

トリセツ

—鳥大説明書—

鳥取大学に関する様々な情報を取り扱い、解説していく情報紙です。
学生スタッフが企画・取材をすることで、学生目線から見た鳥大の姿をお届けしたいと思います。

FSC
特集号

ロボット芝刈り機のプロフィール

名前	まだないよ
誕生日	えーっと…
身長	72cm×56cm×31cm
体重	13.2kg
血液型	え…!?
出身	ヨーロッパ
好きなもの	青々とした雑草
嫌いなもの	越えられない坂
特技	1か月220円程度で働き続けます(・ω・)ゞ
意外な事実	ピンク色の兄弟がいる・実はライトが点く
定価	約80万円

庭が広い人は是非使ってみよう



わたしの

トリくみ

ロボット芝刈り機編

鳥大の学生や先生方、
研究室の取り組みを
紹介していくコーナーです。

今年の8月まで、鳥取大学の地域学部棟前の芝生には、自動で働くロボット芝刈り機がいました。これをご覧になった皆さんは興味を抱かれたのではないのでしょうか。あの芝刈り機は農学部附属フィールドサイエンスセンター(FSC)が管理しています。そこで今回はFSCに取材させていただきました。

愛称募集のお知らせ

名前のまだないロボット芝刈り機に名前、つまり愛称をつけてみませんか??

ロボット芝刈り機の愛称の募集を開始します。
応募方法はとても簡単! gakusei_kouhustaff@yahoo.co.jp (QRコード) にメールを送るだけ。期限は2016年2月29日までです。沢山のご応募お待ちしております!(^^)!
※メールには「件名:ロボット芝刈り機の愛称募集について 本文:ペンネーム、愛称の案」を入力の上、送信してください。



フィールドサイエンスセンター (FSC) とは…

鳥取大学農学部附属FSCは、農地や森林などのフィールドを活用した研究・教育・地域貢献を実践すること、さらに農学部における総合的なフィールド科学の情報発信基地としての機能を担うことを目的としている施設です。FSCには水田や畑があり、大学にいながら農業体験をすることができます。そして収穫した作物は広報センター前で販売したり、学内だけでなく学外でも販売したり、さらに附属小・中学校へ提供したりしています。また農業を通じて、収穫量を増やす方法や、農業の省力化、機械化について研究をしています。



インタビュー!!

今回ロボット芝刈り機についてFSC普及企画部門の作物管理学の山口武視先生と農業生産工学の野波和好先生にインタビューをさせていただきました。

Q どうして学内でロボット芝刈り機を導入したのですか？

A 農業をしているのは主に高齢の方で、今後農村自体が維持できなくなりそうです。すると、少人数でお年寄りでも仕事ができるようにすることが必要で、その一つの解決策は機械による省力化です。「芝刈りに時間を取られる」という声から、学内でロボット芝刈り機を導入できないかと思い、学内で試運転させることにしました。ここから改良点を見つけ、ロボットが動ける環境を研究し、実際の農業で使えるようにしていこうと思っただけです。

Q 全国ではどのくらい広まっているのですか？

A まだ50台程度しか売れていないようですが、全国で実証実験が行われており、鳥取大学では雨の多く起伏のある山陰地方を想定して試運転をしています。



▲野波先生

Q 傾斜にどのくらい耐えられるのですか？

A 一部でタイヤが滑って芝が1か所剥けてしまいましたね(笑)。しかしこの結果より20°ぐらいまでは耐えられることが分かりました。また、山間地に行けば斜面は急になりますが、タイヤの種類を変えることにより対応させたり、作業道を作ることで運用できる環境を作ることによって解決できると思います。

Q 今回の実験より、どのくらいの効果が見られましたか？

A 芝生の状態をキープできることが分かりました。これは、毎日草を刈り続けることにより、伸びた分を刈り取ってくれるからです。それに、刈り取られた葉片がとま小さいので回収して捨てるという手間がありません。また、葉片が微生物により分解されて、肥料のような栄養になっているのではないかとも思われます。まあ、細かいので風で飛んで行ってしまうかもしれませんけど(笑)。また電気代も安く1か月約10kWh。なんと1か月で約220円です!!



▲山口先生



気になるロボット芝刈り機の裏側!!
写真のように円盤の三か所から遠心力により飛び出る刃で芝を刈っていたのです!!

Q いつから広報センター前で直売を始めたのですか？

A 広報センター前で生産物の直売を始めたのは2年前からです。それまでも各学部の裏玄関などで直売をしていましたが、直売によりFSCをさらに知ってもらい、また、学外の方が来やすいように広報センター前で直売を始めました。現在では、5月末から12月末までの毎週木曜日11時30分から12時30分まで販売しています。ただし、売り切れ次第終了なのでお早めにお越しください。

Q どのような作物を販売していますか？

A 時期により変わりますが、トマト・米・スイートコーン・エタメ・ジャガイモ・サツマイモ・梨・ブドウなど年間20種類ほどの作物を販売しています。あまり流通していない、珍しい作物や鳥取の地場作物の栽培も考えていますが、まだ実現できていません。

Q 直売と農学部生にどのような関わりがあるのですか？

A 農学部生はFSCで実習を通して、さまざまな作物の実際の栽培管理を学修し、その生産物を直売しています。実習受講生は販売する作物の生育過程のどこかで係わっています。なお、管理作業のほとんどは技術職員の方が担当しています。農学部の実習生の中には、ソラマメを今まで食べることでできなかったという学生もいます。

Q 毎週何人ぐらいの方が利用されていますか？

A 50人ほどの方が買いに来られます。その8割が学内の学生や大学職員です。さらに多くの方に来ていただきたいです。

Q 売り上げはどのように使われていますか？

A 売り上げは大学の収入として管理され、運営費として農学部に分けられFSCでは、肥料代、種苗代、ハウス・機械などの維持費などに使われています。作物栽培には多くのコストがかかるので、大切に使っています。

Q 販売する上での苦労・工夫はありますか？

A 販売する品物が毎週揃うように考えています。そのため同じ作物でも、種を播くところから管理方法まで、お客さんの数を予想し、収穫期間が長くなるように工夫しています。



▲中田先生

皆さんは、毎週木曜日に広報センター前で農学部附属フィールドサイエンスセンター (FSC) が野菜・果物などを直売されていることを知っていますか？「知らない」という人が多いのではないのでしょうか。そこで、FSCセンター長の中田昇先生にインタビューをさせていただきました。



▲当日のメニュー表▲

感想
購入して食べるとはとてもみずみずしくおいしかったです。今回取材させていただき、販売するまでに多くの人の手がかかっていることを知り、普段食べている物について考えを深めたいになりました。(担当:津田)



▲直売の風景



▲販売されている梨

Q 今後の目標を教えてください。

A 実習受講生の学修に参考になるように、これからも、適宜よいものを生産して、お客さんにおいしいものを食べてもらいたいです。そのためには購入いただいたものはできるだけ美味しく食べたいと思います。そして、より多くの人に農学部の学生が学修のためにいろいろな作物を栽培していることを知ってもらいたいです。

Q 一般の方々からの声はどのようなものがありましたか？

A 「これって何?」何をしてるの?」という質問が多く、「梨のルンバです」と答えるとわかりやすいようです。また、いつの間にか愛着が湧いたりしく、「癒されてました」という声も出てきました。働き続ける機械なので、太陽の光が当たると、もうかぬ。また名前を付けてもらったり、ペインティングしてもらったりして楽しんでいただけたらと思います。突飛な反応としては、ついて回ってダイエットしようと思った学生がいたことですかね(笑)。

Q 今後の方針についてお聞かせください

A これからは色々な状況にどれだけ対応できるのかということをやっていきます。竹藪や障害物のある農学部棟の前、つまりストレスのかかる場所でもどうなるかということですね。将来的にはFSCの果樹園の下草刈り用として実証し、農業現場に出すためにはどのような工夫が必要かということを検証していきたいと思っています。そして、アイデアにより、芝刈りだけでなく、別の効果などを追加できれば面白いんじゃないかと思っています。

Q 最後に皆さんに向けてメッセージをお願いします

A 4月から皆さんに可愛がってもらっていたロボット芝刈り機ですが、今回農学部棟に移動しました。今後とも見守っていただきたいと思っております。また、あれは完成形ではありません。できることが分かれば可能性はどんどん広がります。特に学生さんにはあのようなものから可能性を発想していただきたいなと思っておりま。これは農学部だけでなく、他の学部の知を寄せ合い、生み出されるものだと思いますので、これこそ大学と思えます。最後になりましたが皆さんに知ってもらおうと我々もやりがいが出てきますので今後ともよろしくお願ひします。

感想
人生初の記事制作でしたが、取材自体はとても楽しかったです。気になっていたロボット芝刈り機の裏側も見れました!!(担当:立田)

直売のウラ側体験 (稲刈り&芋掘り)

FSCセンター長の中田昇先生より、販売だけでなく生産側の様子もぜひ知ってもらいたいとのご意見から、農学部の授業の一環で行われる稲刈りにお邪魔させていただきました。

- 1 晴天のこの日、FSC湖山農場に集まったのは農学部の学生総勢110名。指を刈らないように!など、諸注意が行われています。3班に分かれて、農場へレッツゴー!
- 2 農場では黄金色の稲穂が一同に風で揺られていました。キレイ!改めて、刈り方や稲束の結び方を教えてください。みんな真剣です。
- 3 刈っては束を結ぶ作業の繰り返しです。刈りときの「ジャーンっ!」という音がなんとも気持ち良いです。
- 4 スタッフもちゃんとお手伝いしました。きつく結ぶのがムズカシイ...結びが甘いと稲束を干す時に落ちてしまいます。
- 5 「安心して下さい、ちゃんと手伝ってます」by中田先生はさ掛け用の稲束を運んでくださっています。
- 6 束ねた稲をどんどん稲木にかけて稲を乾燥させます。
- 7 あれだけあった稲も大勢で刈るとすぐ終わってしまいました。皆さん、お疲れさまでした。

感想
今回はたった1日の生産の場体験でしたが、普段は何気なく買って食べている農作物が、大変な生産過程を経て販売されているということをもっと学びました。この日は芋掘り体験もさせていただいたのですが、土から芋を掘り起こす際に少しでも皮がめくれると商品価値が半減してしまうとのこと。みなさんもぜひ、「生産の場」を体験してみてください。販売されている農作物を見る目が変わるかもしれませんよ...? (担当:富森)

学生広報スタッフ活動実録

「トリセツ」をご覧ください、ありがとうございます！

今号よりスタッフが2名加わりまして、計5名で活動しております学生スタッフです。

皆様のご支持により、「トリセツ」もとうとう5号となりました！

そこでいったいどんな過程で「トリセツ」が完成しているのか、製作部隊の舞台裏をお届けします！わかりやすいように少々過程を省いている箇所もありますが、大まかにはこんな感じで作っているということがわかりいただければ幸いです！



1 企画会議

「トリセツ」の紙面内容を企画します。

今号のように紙面全体で大きくテーマを設定する場合もあれば、1号のように特にテーマを決めずやりたい内容を載せる場合もあります。スタッフ皆で意見を出し合って方向性を決定するのが最初の仕事です。

2 役割分担決定

「トリセツ」では内容が決まり次第、担当を割り振り、各スタッフが責任を持って担当箇所に取り組みます。これ以降の活動では、担当者がその記事の主導者となって他のスタッフと協力していきます。

3 取材

インタビューやレポートなどの記事に重要なのがこの取材という活動。

対面してお話を伺ったり、現場にお邪魔して参加させていただいたり。

記事を彩る写真もこの際に撮影。さまざまな角度から多くの枚数を撮影します。



4 校正・校了

出版社さまに作っていただいた紙面に校正を加えます。色を薄くしたり、写真を増やしたり、原稿を訂正したり……。何度も皆で話し合ってよりよくなるように完成に近づけていきます(第2の難関)。

校了が終わると印刷段階に入ります。

5 入稿

できあがった記事・写真を出版社さまにお渡しし、本格的に紙面を作っていきます。

この辺りから出版社さまとのミーティングが始まります。デザインや色合いなども同時に伝え、「トリセツ」のイメージを形にします。



6 執筆(原稿起こし)

文字に起こしていく作業です(第1の難関)。インタビューは、聞いた話をまず全部文字にし、そこから文章としてまとめていきます。

書いた記事は、取材に協力していただいた方々に一読と訂正箇所の指摘等をいただき、間違った情報を伝えることがないよう、再度原稿を書き直します。

7 完成

ようやく皆様にお届けできる紙媒体となって「トリセツ」が完成！

スタッフ全員で確認し、完成を実感します。

そしてこの後「トリセツ」が各所に配布されます。



おまけの舞台裏



▲インタビュー写真に写りこむとりりん

スタッフ

なごやかな雰囲気になる

さすがは大学のマスコット！

本当はICレコーダーが写真に写らないように隠しているだけだが！

それは言っちゃだめだ



お手伝いありがとう、とりりん。

※ICレコーダー、カメラはインタビューさせていただく方々のご理解をいただいた上で、随時使用しています。

以上が「トリセツ」完成までの一連の大まかな流れです。

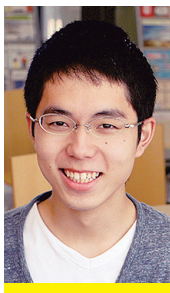
⑦の後はすぐ次の号が待っているんで、①に戻ります。

取材にご協力いただきました皆様、「トリセツ」を読んでいただいている皆様、ならびに関係者の皆様、改めましてありがとうございます！

今後も楽しんでいただける記事となるよう、スタッフ一同頑張ります！

(担当：山谷)

NewFace



工学部 電気情報系学科1年

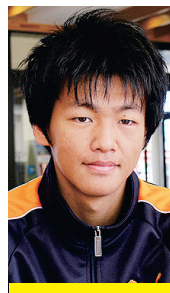
津田 将吾

出身地：兵庫県姫路市

特技：人の顔を覚えること

意気込み：

鳥大のことをもっと知りたいと思い、学生広報スタッフに応募しました。学内のいろいろなところで取材させていただいて、鳥大の魅力を積極的に学内外に発信していきますので、これからよろしくお願いします！



工学部 機械物理系学科1年

立岩 康輝

出身地：兵庫県姫路市

趣味・特技：料理、音楽鑑賞

意気込み：

友達に誘われて始めるという不純な理由(?)ですることになった学生広報スタッフですが、やるからには全力で取り組みたいと思います！今回が初仕事で至らない点があると思いますが、これから頑張っていこうと思うので今後ともよろしくお願いします。



学生広報スタッフ募集中！

私たちと一緒に活動しませんか？

宛先 ge-kouhou@adm.tottori-u.ac.jp (ご意見感想もこちらまで！)

取材にご協力いただきました皆様、ありがとうございました！ ● 2015年11月発行 ● 編集発行／鳥取大学広報企画室学生広報スタッフ